

(イ) 銅釧ー古墳時代に於ける九州出土の銅釧ー

村 上 久 和

本横穴群22、69、80号横穴墓より銅釧が各1点出土した。形態は22号のものが円環有刻型で全体に磨滅が激しく特に刻目はヤリ状のもので刻み込んだものかあるいは鋳出したものが磨滅したのかは定かでない。いずれにせよ長期間使用したものと考えられる。69、80号出土のものはやや太い針金状の銅線を円形に曲げて作ったものである。22号横穴墓では田川市セスドノ古墳と同様の陶質土器と考えられる蓋が出土しており、さらに形態は福岡県桂川間町二塚8ー①号横穴墓出土のものと内径、刻目数とも同一であることなどから朝鮮半島製の可能性もある。

さて、金属製釧についての研究は近年、小高幸男氏^(註1)によって全国的集成が行われ、その保有の意義等が検討された注目すべき論考がある。本稿も先論とおおまかには同一の見解であるが近年の官見の限りの集成を加え時期、分布、保有者の階層性等を検討してみる。

第194表 銅釧出土地名表 (北部九州)

No	遺 跡 名	所 在 地	墳 形	埋 葬 施 設	数 量	形 式	共伴遺物	時 期	文 献
1	岬ヶ原37号墳	福岡県大牟田市	円墳	横穴式石室	1	円環有刻型	勾玉、管玉、切子玉、ガラス玉、耳環、鉄鏃、須恵器	6 C 後半	『岬ヶ原古墳群』大牟田市教委1990
2	横隈井の浦1号墳	福岡県小郡市	円墳	横穴式石室	1	円環無刻型	管玉、耳環、鉄鏃、刀子、須恵器	7 C 前半～中頃	『横隈井の浦遺跡』小郡市教委1990
3	観音山古墳群中原Ⅰ群ー9号墳	福岡県那珂川町	円墳	横穴式石室	3	円環有刻型	勾玉、管玉、ガラス玉、直刀、鉄鏃、刀子、馬具、須恵器	6 C 中頃	『観音山古墳群Ⅲ』那珂川町教委1988
4	二塚8ー①号横穴墓	福岡県桂川町		横穴墓	1	円環有刻型	甕玉、ガラス玉、耳環、須恵器	6 C 後半	『土師地区遺跡群Ⅳ』桂川町教委1989
5	井河1号墳	福岡県那珂川町	円墳	竪穴系横口式石室	2	鈴釧円環有刻型	勾玉、管玉、ガラス玉、直刀、鉄鏃、刀子、鉄剣、須恵器	5 C 後半～6 C 前半	『井河古墳群』那珂川町教委1983
6	東田8号墳	福岡県岡垣町	円墳	横穴式石室	1	円環有刻型	耳環、切子玉、ガラス玉、直刀、鉄鏃、刀子、鉄斧、須恵器	6 C 中頃～後半	『東田古墳群』岡垣町教委1977
7	花見1号墳	福岡県古賀町	円墳	割竹形木棺	2	円環無刻型	銅鈴、手鐲、鉄鏃、鉄斧、鉄刀、鉄剣	4 C 末～5 C 初	『花見遺跡』古賀町教委1984
8	村山田高江1号墳	福岡県宗像市	円墳	横穴式石室	1	円環無刻型	耳環、鉄鏃、刀子、ガラス玉、直刀	6 C 後半	『宗像埋蔵文化財発掘調査報告書』宗像市教委1989
9	坂元2号墳	福岡県前原町	円墳	竪穴系横口式石室	2	円環無刻型	銅鏡、鉄鏃、刀子、鉄鎌、管玉、ガラス玉、須恵器	5 C 末～7 C 中頃	『坂元古墳群』前原町教委1980
10	鋤崎古墳	福岡県福岡市	前方後円墳	初期横穴式石室	2	円環無刻型	銅鏡、鉄剣、櫛、勾玉、管玉、ガラス玉、滑石製白玉	4 C 末～5 C 初	『鋤先古墳』福岡市教委1984
11	佐谷古墳	福岡県粕屋町	円墳	横穴式石室	1	円環無刻型	管玉、切子玉、耳環、ガラス玉、白玉、須恵器	6 C 後半	『佐谷・脇田山古墳調査報告』福岡県教委1974
12	宇美観音浦KSS号墳	福岡県宇美町	円墳	横穴式石室	1	円環無刻型	ガラス玉、耳環、鉄鏃、直刀鐲、須恵器	6 C 末	『宇美観音浦』宇美町教委1981
13	土佐井1号墳	福岡県大平村	円墳	横穴式石室	1	円環有刻型	耳環、勾玉、丸玉、須恵器	6 C 後半・7 C 後半	『土佐井地区遺跡』大平村教委1990
14	グラントヤ2号墳	大分県日田市	円墳	横穴式石室	1	円環無刻型	耳環、ガラス玉、切子玉、銅鏡、直刀、鉄鏃、馬具	6 C 後半	『グラントヤ古墳群』日田市教委1986
15	草場13号墓	大分県日田市	方形周溝墓	溝内	1	円環無刻型		4 C 末～5 C 初	『草場遺跡』大分県教委1989
16	七双子2号墳	大分県杵築市	円墳	横穴式石室	3	円環無刻型	耳環、管玉、ガラス玉、鉄剣、刀子、鉄鏃、鉄鎌、須恵器	6 C 中頃～後半	
17	七双子4号墳	〃	円墳	横穴式石室	破片3	円環無刻型	耳環、勾玉、管玉、甕玉、丸玉、直刀、鉄鏃、須恵器	6 C 後半	『七双子古墳群』大分県教委1962
18	上ノ原22号横穴墓	大分県中津市		横穴墓	1	円環有刻型	貝輪、耳環、鉄鏃、刀子、須恵器	6 C 後半	
19	同69号横穴墓	〃		〃	1	円環無刻型	耳環、刀子、鉄鏃、貝輪、須恵器	6 C 後半	
20	同80号横穴墓	〃		〃	1	円環無刻型	馬具、鉄斧、鉄鏃、刀子、耳環、勾玉、管玉、切子玉、ガラス玉	6 C 後半	
21	朝田11号墳2号主体	山口県山口市	円墳	横穴墓	1	円環無刻型(有管)	勾玉、ガラス玉、刀子、須恵器	6 C 前半	『朝田墳墓群Ⅵ』山口県教委1983
22	竹並古墳	福岡県行橋市							

まず、時期については福岡県鋤先古墳、同花見1号墳、大分県草場13号方形周溝墓の4世紀末～5世紀初頭のものを最古のものとする。形態は円環無刻型で鋤先古墳の着装状態の詳細は不明であるが、花見1号墳はその出土状態から着装状態で埋葬したとは考えられないのは指摘のとおりである。おそらく、石製腕飾類の代用品として普及したものであろう。次に5世紀後半～6世紀前半にかけて円環有刻型と同無刻型が共存する。この円環無刻型のものが前代より引き続くものか、この時期に新たに有刻型の影響により出現したものか明確でない。現在まで5世紀中頃前後の銅釧の出土は北部九州内では管見の限りでは無い。今後の検当課題である。さらに6世紀中頃から後半にかけては両型式とも出土し、特に6世紀後半には出土量がピークに達する。この中には明らかに半島製のものも見られる。これには、当期にもたらされたものかあるいは上ノ原22号横穴墓出土例のように5世紀後半前後にもたらされたものが伝世され、6世紀後半に副葬された可能性も強い。いずれにせよ6世紀後半に実用的な装飾品として北部九州にこの種の銅釧が普及したことを物語っている。

次に、分布の特徴としては北部九州周辺部に偏在する。貝輪鉄釧が汎九州的に認められるのに比べ限定的である。この一つの要因として、基本的には朝鮮半島製の有刻型銅釧が北部九州にファッションとして普及し、それを模倣して無刻型銅釧が有刻型銅釧を入手できない周辺地域で使用されたものと考えられる。

最後に保有者の階層性、性差を検討する。出土した古墳は鋤先古墳を除き全て中・小円墳および横穴墓である。さらに共伴遺物では小型仿製鏡が散見されたり、ほとんどの古墳で直刀、鉄剣が見られること、鉄鏃の副葬が多いことなどから在地小首長層（村落首長）をふくむ有力家父長層を中心にこの種の銅釧が装飾品の一つとして普及したことが窺われる。

註(1) 小高 幸男 「古墳出土釧の基礎的研究—金属製釧について—」『研究紀要Ⅲ』1989年君津市文化財センター